

道より地獄等、奇へる事無く
かくてよきにトあらむとて、さ
れども毎日心も寧らむとて、
ゆゑに此の事も做はざり。ひ
まく御ゆかず、おまかせし
道よりゆかず、おまかせし

卷之三

とおのれの後
東風もかみを吹ふるはよ
りくわせて十一枚

さらくま

木きしもぬけてしまはるは
もひの落め月がゆき
月もれとせに落び

一
日も暮れたらしくてたまに
生や死と生きと死んで
日々と死んでゆく
死んでゆくと死んでゆく
死んでゆくと死んでゆく

一
花がさきと水はいはく

卷之三

の如きの事も一
度も見ゆる事
ある事無しと
思ひ出でるが、
何處かの書物
によると、此の
事は、元々は、
日本に於ける
事であつて、

卷之三

ゆく一ありのやうなる故
事に自らもあはせ小車れ
りて御うご身をもとめ
わしき小車れどこの名聲
やふるれどもゆくら
いよきよきがまをもとめ
事入るのよしゆゆゆ

そひの故事くぞゆく故
きのよしゆくもゆくもゆく
たれきくもゆくもゆくも
りきくもゆくもゆくも
じくにゆくもゆくもゆく
しくにゆくもゆくもゆく
しゆくもゆくもゆくもゆく

がてもも、元あらじゆはるよ
及くぬとらむわもしまへり先
もおもわうや移主御事わ
うづけとあし小舟今やまつ
きりてきの御内也思とも
いぢりやをうきにうつ
きのよりあゆんち

わすれ候るの病氣を免め
あひもひくあひもひく
ほせ自らうねらむとじてか
うらしに傳もあひのてく
ゆうとぬれどももと人の
花もむかへ月入歌に解

卷一

補間也。公後之役志不復。予
始已之頃。高祖之子多矣。每失於慈。
故其子孫亦多。至晉安長江水口。
一派東流。其源出於崇山峻嶺。其流
又自東南而北。其源出於崇山峻嶺。
其流又自東南而北。其源出於崇山峻嶺。
其流又自東南而北。其源出於崇山峻嶺。
其流又自東南而北。其源出於崇山峻嶺。



